

## 平成27年度 第1回公立大学学長会議

平成27年度第1回学長会議（公立大学協会主催）が、平成27年10月12日（祝）、本学桜山キャンパスにて開催されました。「公立大学には4人の母がいる」のタイトルで、副題は「本学のささやかな改革紹介と提言」と題して、パネリストとして発表させていただきました。大学改革の最新の政策動向を共有しつつ、公立大学の向かう方向や将来像について、ともに議論を行いました。

多様な公立大学が結束して、それぞれの特徴を活かし連携協力し合いながら、公立大学のさらなる発展に努めてまいります。

平成27年10月12日  
名古屋市立大学 理事長・学長  
郡 健二郎

## 平成27年度 第1回公立大学学長会議パネルディスカッション資料



学長会議における本パネルの壮大なる主題「新たな大学改革の展開と公立大学のビジョン」には到底応えることはできませんが、「公立大学には4人の母がいる」のタイトルで、副題は、「本学のささやかな改革紹介と提言」といたしました。本学が、先生方の大学と特に異なる改革をしておらず、提言と言うにはおこがましいのですが、話をさせていただきます。

## 本日の話の内容

1. 母からの愛に飢えている公立大学
2. 名古屋市立大学の現状と課題
3. 名古屋市立大学のささやかな改革
4. 母を愛し、もっと愛されるために

本日の話は4つの観点  
1) 母からの愛に飢えている公立大学  
2) 名古屋市立大学の現状と課題  
3) それを踏まえた、名古屋市立大学のささやかな改革  
4) 最後にまとめて変えて「母を愛し  
もっと愛されるため」  
を、お話しします。

## 本日の話の内容

1. 母からの愛に飢えている公立大学
2. 名古屋市立大学の現状と課題
3. 名古屋市立大学のささやかな改革
4. 母を愛し、もっと愛されるために

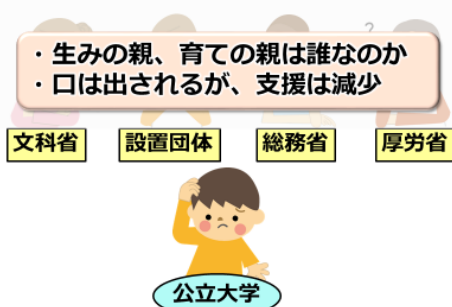
まず始めは、  
母からの愛に飢えている公立大学です。

## 公立大学には4人の母がいる



公立大学には、文科省、設置団体、総務省、そして公大協 86 大学中 60 余りの大学が関わっている厚労省、の4人の母がいます。わが国の経済が高度成長期の時は、4人の母に囲まれ、甘やかされるように暮していましたが、現在では、甘えると時にそっぽを向けられ、違う母には怒られ、～いったい生みの親、育ての親は誰なのか～、～口を出されるが、支援は減少する～との思いをすることがあります。

## 公立大学には4人の母がいる



## 母からの愛情が乏しくなっている



1. 心の支え (期待感、存在感)
2. 信頼関係 (会話不足、情報の遅れ)
3. 金銭的支援 (交付金、補助金)
4. 投資 (人材育成、教育研究設備)

公立大学の存在意義は何なのか？

母からの愛情が乏しくなっていると、率直に思います。例えば、

心の支え (期待感・存在感)

信頼関係 (会話不足、情報の遅れ)

金銭的支援 (交付金、補助金)

投資 (人材育成や教育研究設備) などです。

このような時だからこそ、基本に戻って、私たち公立大学の存在意義は何なのか、と考えることが大切だと思います。

## 「公立大学の存在意義」は国家大計の基盤にあり



私は、「公立大学の存在意義」は国家大計の基盤を築くこと、すなわち

人材の育成

学術の振興

地域の活性

社会の発展

国際化など

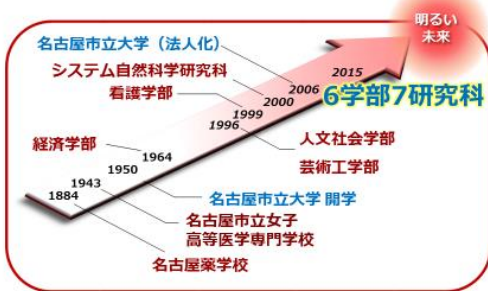
を担っていることだと思います。これらの存在意義や使命を、私たち公立大学が自覚し、社会の方々や「4人の母」にしっかりご理解いただくことが肝要だと考えます。

## 本日の話の内容

1. 母からの愛に飢えている公立大学
2. 名古屋市立大学の現状と課題
3. 名古屋市立大学のささやかな改革
4. 母を愛し、もっと愛されるために

そのような背景を踏まえ、「私たち名古屋市立大学の現状と課題」をお話いたします。

## 名古屋市立大学の現状と課題 (1) ～歴史と沿革～



まずはじめに、本学の歴史と沿革をご紹介します。

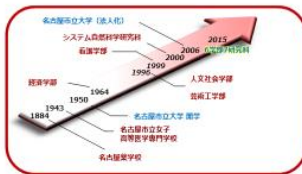
本学は、1884年創設の名古屋薬学校と、1943年創設の名古屋市立女子医学専門学校を源流として、1950年、今から65年前に創設されました。その後、大学の統廃合により、現在では6学部7研究科を有する総合大学となり、明るい未来に向かって歩んでおります。

一方、その発展の陰には、ルーツが異なる学部間の壁があり、愛校心や連帯感が欠如していると、時々感じるのですが、本学の課題です。

なお、課題は以後、緑の枠文の中で示してまいります。

## 名古屋市立大学の現状と課題 (1) ～歴史と沿革～

- ① 発展の陰に、前身在異なる学部間の壁
- ② 愛校心・連帯感の欠如



## 名古屋市立大学の現状と課題 (2) ～4キャンパス～

- ③ 学部あって大学なし
- ④ 学部間の教育研究における交流不足
- ⑤ 予算や事務の分散による非効率



2つ目の現状と課題は、本学は、4キャンパスに分かれていることです。本日、皆さまがお越しいただいているのは桜山キャンパスで、本部や医療系の学部があります。キャンパスが分かれていることによる課題は、

- 1) 学部あって大学なし
- 2) 学部間の教育研究における交流不足
- 3) 予算や事務の分散による非効率があることです。

名古屋市立大学の現状と課題 (3)  
～法人化後、閉塞感が増している～

法人化したのに  
自由度が少ない。

法人化前に比べ  
名古屋市との距離感が  
遠くなった。



3 つめは、法人化後、閉塞感が増していることです。

「法人化したのに自由度が少ない」、  
「法人化前に比べ名古屋市との距離が遠くなった」との思いを、多くの教職員が感じています。

なにかが  
足りない  
?



明るい  
未来

明るい  
未来



明るい  
未来

閉塞感の  
打開



「名市大の明るい未来」を築くには  
何かが足りない。それは、「閉塞感を打  
開」することだと思います。



### 名古屋市立大学の現状と課題 (3) ～法人化後、閉塞感が増している～

法人化したのに

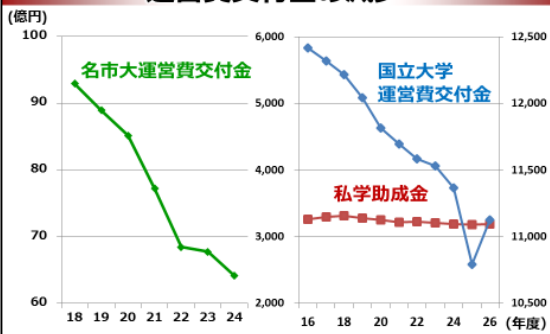
- ⑥ 予算の削減
- ⑦ 教職員の定員削減
- ⑧ 研究教育時間の減少
- ⑨ 事務量・会議・雑務の増加
- ⑩ 中期計画など硬直化した制度による縛り

法人化後、閉塞感が増している具体的な内容は、

- 1) 予算の削減
- 2) 教職員の定員削減
- 3) 教員の研究教育時間の減少
- 4) 事務量・会議・雑務の増加
- 5) 中期計画など硬直化した制度による縛り

などです。この中で、「予算の削減」の実例を次にお示しします。

### 名古屋市立大学の現状と課題 (4) ～運営費交付金の減少～



本学の運営費交付金は、法人化後わずか6年間で、当初の3分の1に当たる約30億円減りました。左のスライドには、国立・私立大学の数値を文科省HPから引用しました。国立では同じように減っているように見えますが、「スケール」が異なっており、約11%の減額です。

### 名古屋市立大学の現状と課題 (5)



経済学部棟

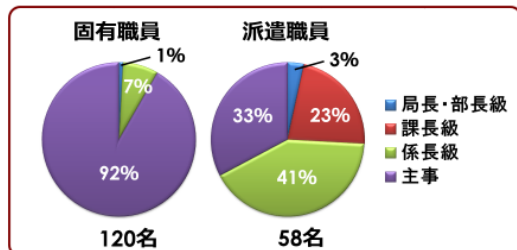
医学部基礎教育棟

- ⑪ 施設の老朽化

5つ目は、施設が老朽化していることです。近隣の私立大学では、駅前に高層ビルの校舎を次々に建築されるのを羨ましく眺めています。

## 名古屋市立大学の現状と課題 (6)

～事務職幹部は、名古屋市からの優れた派遣職員～



⑫ 事務職固有職員の幹部候補生としての育成

6 つ目は、事務幹部職員は名古屋市からの派遣職員であることです。幹部の大半は名市大に献身的で優秀な方々なので今のところは問題ないのですが、大学の固有職員の多くは主事です。これらを踏まえ、本学の課題は、将来を見据えた固有職員を幹部候補生として計画的に育成することです。

## 名古屋市立大学の現状と課題

～まとめ～

- ① 発展の陰に、ルーツが異なる学部間の壁
- ② 愛校心・連帯感の欠如
- ③ 学部あって大学なし
- ④ 学部間の教育研究における交流不足
- ⑤ 予算や事務の分散による非効率
- ⑥ 予算の削減
- ⑦ 教職員の定員削減
- ⑧ 研究教育時間の減少
- ⑨ 事務量・会議・雑務の増加
- ⑩ 中期計画など硬直化した制度による縛り
- ⑪ 施設の老朽化
- ⑫ 事務職固有職員の幹部候補生としての育成

これまでお話した「本学がかかえる課題」をまとめました。時間の都合上、復唱することはできませんが、並べてみると、私たちが日頃感じていることでもあります。

- 1) 発展の陰に、ルーツが異なる学部間の壁
- 2) 愛校心・連帯感の欠如
- 3) 学部あって大学なし
- 4) 学部間の教育研究における交流不足
- 5) 予算や事務の分散による非効率
- 6) 予算の削減
- 7) 教職員の定員削減
- 8) 研究教育時間の減少
- 9) 事務量・会議・雑務の増加
- 10) 中期計画など硬直化した制度による縛り
- 11) 施設の老朽化
- 12) 固有事務職員の幹部候補生としての育成

## 本日の話の内容

1. 母からの愛に飢えている公立大学
2. 名古屋市立大学の現状と課題
3. 名古屋市立大学のささやかな改革
4. 母を愛し、もっと愛されるために

本学が抱えるこれらの課題を踏まえ、本学がささやかに地道に取り組んでいる改革をご紹介します。

### 名古屋市立大学のささやかな改革（1）

～大学憲章の制定～



2014年10月28日  
（開学記念日）制定

まずはじめは、「大学憲章」を昨年の開学記念日に制定したことです。

大学憲章を制定した主な理由は、「建学の精神」を持つ私立大学に比べ、各学部のルーツが異なる国公立大学では愛校心が少ないことからです。

本学では、ルーツが異なる学部間の壁を乗り越え、心を一つにして明るい未来に進む一助にすべく大学憲章を制定しました。

### 名古屋市立大学のささやかな改革（1）

～大学憲章の制定～

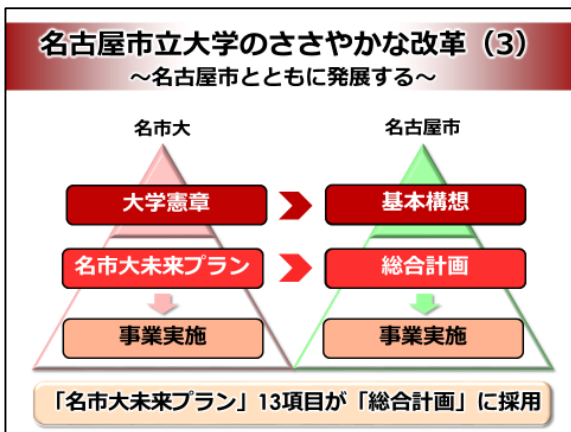
- ・「建学の精神」を持つ私学に比べ、国公立では愛校心が少ない
- ・ルーツが異なる7つの学部間の壁を乗り越え、心を一つに

8日  
制定



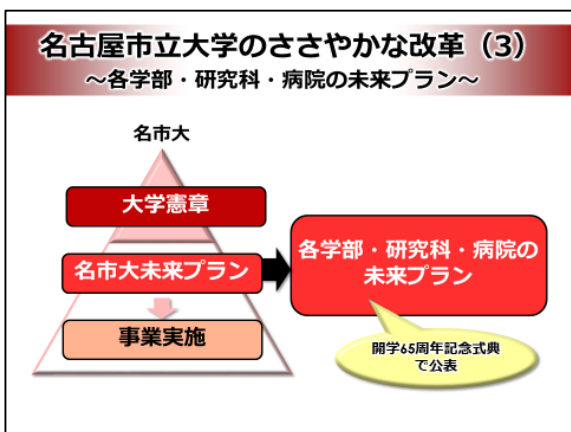


大学憲章の精神を踏まえ、15年後を目差した「名市大未来プラン」を同時に策定しました。未来プランは、4つのビジョン、52のプランからなります。本日お手許の資料に同封させていただきましたので、ご笑覧ください。(本学のホームページでも可能です。)

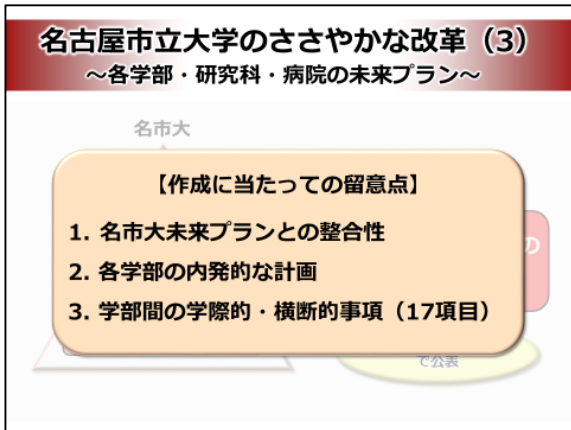


未来プランのビジョンの一つに「名古屋市と共に発展する」ことが謳われています。

その好例として、大学憲章の制定に当たっては、名古屋市の「基本構想」に則り、未来プランの作成に当たっては、昨年ちょうど同じ時期に作成された「総合計画 2018」に則っています。このこともあり、名市大未来プランの13項目が、総合計画に採用していただきました。名市大が名古屋市と一体となって発展する礎になることを期待しています。

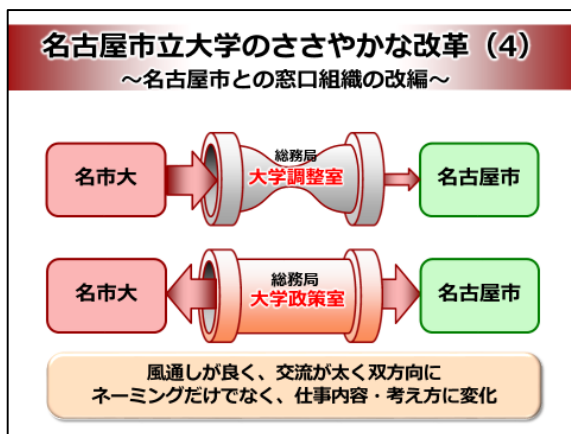


さらに本年、名市大未来プランを基に、「各学部・研究科・病院の未来プラン」を策定し、10月31日の開学65周年記念式典の席上、各部局から公表していただく予定です。



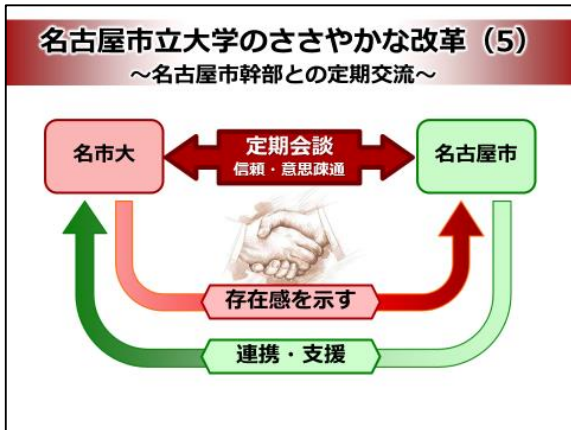
各学部・研究科の未来プランを作成するに当たって留意したことは、

- ① 名市大未来プランとの整合性を保ったこと、
- ② 一方、各学部の内発的な計画を尊重したこと、
- ③ 学部間の学際的・横断的事項を 17 項目取り上げていることです。このことは、先に述べた本学の課題を考えると、もっとも力点をおいたことです。

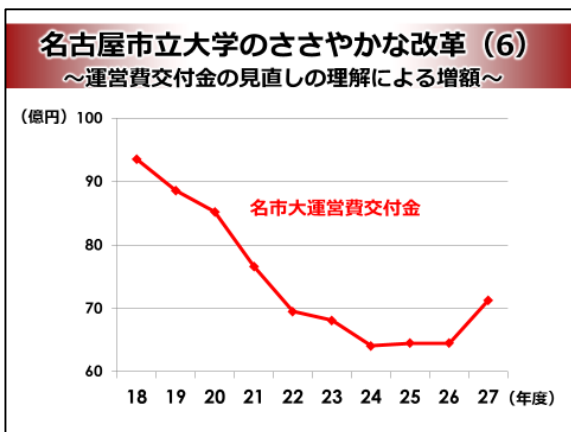


母親の一人である、名古屋市との対話が少なく、一方通行であったことから、名古屋市の窓口組織を改編していただきました。これまでの窓口は、行政改革部大学調整室で、大学から一方的にお願いをする機関でした。そこで、窓口組織を企画部「大学政策室」に変えていただくことにより、風通しが良く、交流が太く、双方向になったと感謝いたしております。

このことは、単にネーミングの書き換えのようにも思えますが、窓口が同じ部署ならば、先輩の仕事に踏襲されるだけのことが多いことから、今回の組織改編は有意義であったと思っています。



この結果、名古屋市幹部との定期交流がなされ、大学からは存在感を示し、母親（名古屋市）からは大学の取り組みへのご理解が深まり、連帯や支援を得はじめております。



その一つは、運営費交付金の見直しです。第二期中期計画ですが、母親のご理解を得て、増額されました。この額は、これまでの減額に比べると僅かですが、V字回復に繋がればと思います。そのためにも、名市大が市民からさらに愛されるように努めたいと思います。

**名古屋市立大学のささやかな改革 (7)**  
～法人化後の閉塞感の払拭～

1. 名古屋市からの長期借入金
2. 病院自己収入による医師・看護師の増員数 (平成27年度)

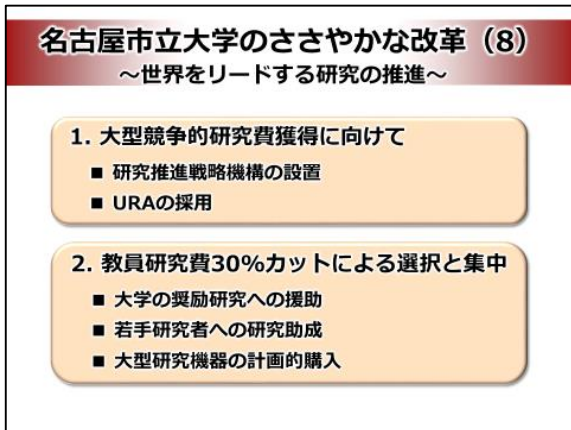
医師	38
看護師	185
コメディカル	63
事務職員	16
計	302 (人)

将来への投資・病院収入の増加

名古屋市（母）からの他の援助としては、

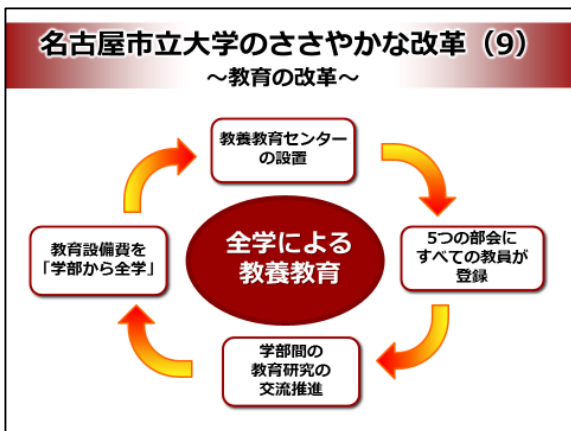
- 1) 長期借入金
- 2) 病院において、自己収入を財源とするという制約はありますが、医師や看護師などの増員に、ご理解をいただいたことです。

これらの援助は、将来への投資、病院収入の増加、そして何よりも、教職員の名市大と仕事への誇りを高め、豊かな職場作りにつながるものと期待しています。



名市大未来プランの中には、「世界をリードする研究の推進」があります。その達成には、研究者個人の努力に加えて、大学の方策として、

- 1) 大型研究資金の獲得に向けた種々の取り組み、
- 2) 教員研究費を30%カットすることにより、その研究費を、
  - ① 大学の奨励研究への援助
  - ② 若手研究者への研究助成
  - ③ これまで購入できていなかった大型研究機器の計画的購入などに、専門チームの意見をもとに投ずる予定です。



教育については、教養教育やリカレント教育など、これまで各学部個別にされてきた教育を、「全学による教育」にすることに力を入れ始めています。ここでは、来春から始まる教養教育をご紹介します。

- \* 教養教育センターを設置し、
- \* 6つの部会にすべての教員が登録し、
- \* 学部間の教育研究の交流を推進することにより
- \* 教育設備費を「これまでの学部単位から全学」の視野で執行することにより、今まで実現していなかった情報ネットワークなどの配備をする予定です。

## 名古屋市立大学のささやかな改革 (11)

～愛校心の醸成～

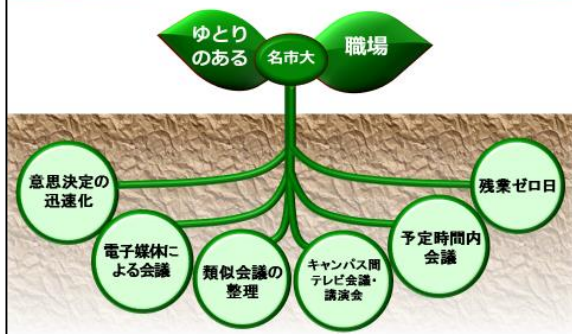
開学65周年事業  
ルーツが異なる学部間の壁を除く



名市大がさらに発展するには愛校心は大切ですが、すぐに醸成されるものではありません。本学では、開学 65 周年を迎えることから記念事業を行うことにより、ルーツが異なる学部間の壁を低くし、教職員と同窓生との交流を深めるようにしています。

## 名古屋市立大学のささやかな改革 (12)

～事務量・会議・雑務の削減～



事務量・会議・雑務の削減への対策として、

意思決定の透明化と迅速化

電子媒体による会議

類似した会議の整理

キャンパス間でのテレビ会議・講演会

会議の予定時間内での終了

残業ゼロの日の遂行

などによりゆとりのある豊かな職場づくりを目差しています。

## 名古屋市立大学のささやかな改革 (13)

～固有事務職員の将来に向けた育成～

- ・固有職員の学内および他大学におけるSD
- ・女性教職員の育成

法人化した公立大学にとって、次世代の育成、とりわけ固有職員の育成は重要です。名古屋市からの派遣職員の協力を得ながら、固有職員の学内および他大学と協調したSD、とくに女性教職員の育成に力を入れているところです。



## 本日の話の内容

1. 母からの愛に飢えている公立大学
2. 名古屋市立大学の現状と課題
3. 名古屋市立大学のささやかな改革
4. 母を愛し、もっと愛されるために

最後に、4「母を愛し、もっと愛されるために」私たちは何をすべきか。大学としての地道な取り組み以外に名案はありませんが、愚見を書いてみました。

## 母を愛し、もっと愛されるために (1) ～母にお願いしたいこと～

### 1) 中央官庁の管轄部署の昇格および専門化

- 文科省高等教育局  
「大学振興課公立大学係」→「公立大学支援課」  
\* ちなみに、国立大学には「支援課」  
私立大学には「私学部」
- 総務省自治財政局  
「財務調査課」→「公立大学課」  
\* ちなみに、公営企業には「公営企業課」

### 2) 文科省からの補助金の復活

- まず、母にお願いしたいことは、
- 1) 中央官庁の管轄部署を昇格および専門化していただくことです。  
\* 例えば、文科省高等教育局「大学支援課公立大学係」の「公立大学支援課」への昇格です。ちなみに、国立大学は「支援課」、私立大学は「私学部」です  
\* また、総務省自治財政局「財務調査課」は「公立大学課」になれば、母子の強い絆が生まれるのではと思います。ちなみに、公営企業に対しては「公営企業課」がありません。
  - 2) そして重要なのは、平成 15 年度を最後に廃止された、文科省からの補助金を復活していただくことです。

## 母を愛し、もっと愛されるために (2)

### 1) 「公立大学の力を活かした地域活性化研究会」

- 3人の母と、より親密な関係に
- 活動の継続により実績を上げる

### 2) 国立大学並みの環境整備

- 地方独立行政法人法（地独法）の改正
  - \* 長期借入金
  - \* 収益事業 など

### 3) 国立大学で今春設置された「議員連盟」の公立版の設置

- 地方議員も含めた支援団体

1) 1年前にスタートした3人の母（設置団体、文科省、総務省）と公立大学（公大協）による「公立大学の力を活かした地域活性化研究会」は、母と公立大学が、より親密な関係を築いているように感じています。活動の継続により実績が上がることを願っています。

2) 私たちが、大学改革に取り組まんとする際、大きな壁にぶつかり感じることがしばしばあります。少なくとも、国立大学並みの環境になれないものかと感じます。とくに公立大学の活動を制限している地方独立行政法人法（地独法）の改正により、

- \* 長期借入金

- \* 収益事業 などを可能にしていきたいと思えます。

3) また、国立大学で今春設置された「議員連盟」の公立版の設置は、地方議員も含めた支援団体になるかと思えます。

## 母を愛し、もっと愛されるために (3)

～設置団体からの期待感・存在感を高める方策～

### < 設置団体に求めること >

- 1) 公立大学担当の専門部署の設置
- 2) 首脳陣の、公大協会議への参加
- 3) 総務省との密な連携
- 4) 設置団体同士の意見交換

設置団体の母からの公立大学への期待感や存在感を高めるために、設置団体をお願いしたいことは、

- 1) 設置団体内に、公立大学担当の専門部署の設置

- 2) 首脳陣の、公大協の会議への参加

- 3) 総務省と設置団体との密な連携

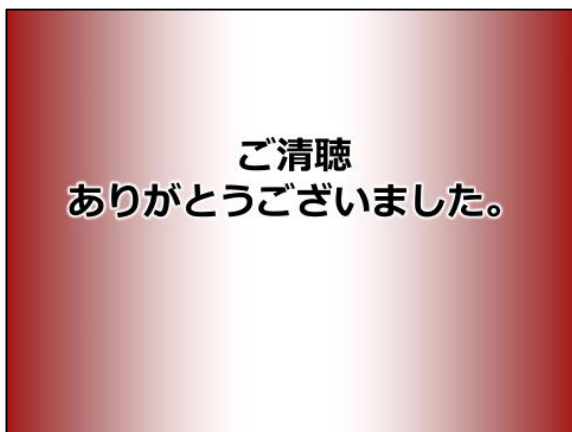
- 4) 設置団体同士が意見交換

です。



最後に、私たちが「母を愛し、もっと愛されるために」もっとも重要なことは、私たち公立大学86大学が結束することだと思います。

公立大学は、設置団体・歴史・規模・地域など多様ですが、その壁を乗り越え、それぞれの特徴を活かして結束することが、公立大学の存在感をさらに高め、社会からの信頼を深めることにつながると思います。



本日は、ご清聴有り難うございました。